



第15号

平成25年7月1日発行

北相模総守護社
亀ヶ池八幡宮

社報

龜ヶ池



いちよう

八百万の神々の中心、皇室の御祖神様である天照大神をお祀りする伊勢神宮は日本で最も尊い社とされている。

その神宮は江戸時代頃から庶民の信仰を益々集める神社となり、「お伊勢参り」が隆盛をきわめた。そして神宮に感謝の気持ちでお参りする風習「おかげ参り」が広がり、江戸から十五日、京都・大阪から五日の道程をかけ、野宿覚悟で参宮することが国民の一生一度の願望となった。

ところで、一千三百年の前に定められた二十年に一度の「式年遷宮」は本年六十二回目を迎え、神宮の御正殿・御装束・御神宝すべてが新造され、今秋十月二日に内宮、十月五日に外宮で遷御の儀が斎行される。いまは改めて式年遷宮の意義を噛みしめつつ、渡御の秘儀を只管待ち望むばかりである。

明治天皇御製

神風の伊勢の宮居のみやばしら
たてあためむ年はきにけり





節分祭斎行 —邪気災厄をはらう—

今年は一月中頃よりの寒さが募り、梅の蕾の膨らみも感じられない2月3日、亀ヶ池八幡宮恒例の節分祭が斎行されました。昇殿された年男年女や厄年の善男善女はお祓いを受けた後、大太鼓に合わせ追儼板を力強く打ち鳴らし大きな声で赤鬼青鬼を退散させ災厄を祓い、その後神楽殿廻廊の特設舞台より「福は内、鬼は外」と大きな声を発しながら豆撒き神事を行いました。

大勢の参拝者は福を得ようと必死に手を伸ばし福豆を拾っておりまして。

多くの福物を御協賛下さいました氏子崇敬者の皆様に篤く御礼申し上げます。



新しい年への願い込め、希望に満ちた平成二十五癸巳年も穏やかに幕を明け、本年も市内外より亀ヶ池八幡大神の広大無辺なる御神徳を仰ぐ大勢の参拝者で、新春の御社頭は大変な賑わいとなりました。新年の幕明けを告げる大太鼓が氏子崇敬者で埋めつくされた境内に鳴り渡り、神前に祈禱神札が供えられ元旦祈願祭が斎行されました。

御社頭では、ご家族や会社の社員等揃ってお参りされ、清々しい光景が終日見られました。

本年は伊勢神宮第六十二回式年遷宮の御代で、来る十月二日内宮で、同五日外宮で遷御の儀が斎行されます。国民挙つてこの大祭を言祝ぎ奉りたいものであります。

平成二十五癸巳年

初詣賑わう御社頭——ご利益満願——

夏越大祓式 茅の輪くぐり神事



水無月の

なごしの祓する人は

千歳の命延ぶというなり

本年は御社殿御神門等の御造営により、少々境内が狭くなりましたが六月二十九日午後三時、「夏越大祓・茅の輪くぐり神事」が古式に則り斎行されました。

日本古来の伝統的な信仰である大祓は、日々の生活の中で知らず知らずのうちに身についた罪や穢れを祓い清め、清く明るく正しい生活を送ることが出来るようにと願う「よみがえり信仰」の根源となる神事です。

当日は梅雨の晴れ間、強い日射しの照りつける中にも拘わらず、四百名を越える老若男女が参列しました。

神職等の大祓詞奏上後、心身ともに祓い清められた参列者は、宮司に続き御神木「夫婦大いちょう」の前に設置された茅の輪を三度くぐり、向こう半年の無病息災を祈願致しました。

一心泣き相撲 第三回「亀ヶ池場所」開催

六月二日、一心泣き相撲第三回「亀ヶ池場所」が開催されました。

例年より十日ほど早い梅雨入りでしたが、当日は風薫る五月晴れに恵まれました。受付を済まされた可愛らしい赤ちゃんが化粧まわしを身につけ、親御さんの考えた四股名の書かれた兜を頭にかぶり、ご神前にてお祓いを受けた後、いよいよ土俵入りです。行司が一人ひとり赤ちゃんの四股名を声高らかに呼ぶと、豆力士の赤ちゃんは、大人の力士に抱えられ、参集殿に設けられた土俵の上へ進みました。

「はっつけよい！」の行司の合図で泣き相撲が開始され、八幡様が見守るなか、いよいよ元気良く泣くと親御さんはじめ、ご家族の皆さんは大変な喜びようで、我が子の姿を写真に収めようと右往左往。その後、力足・手型・背伸び太鼓等の楽しいイベントをして大変な賑わいになりました。

参加された多くの方々から、「親子の絆が一層深まり良い思い出になる行事であり来年も是非計画してほしい。」との声が寄せられました。



神社参拝研修旅行 — 大縣神社参拝と 御造営用材視察 —



総代世話人・神職等による恒例の神社参拝旅行は、平成の御大典事業である「亀ヶ池八幡宮御鎮座八〇〇年奉祝記念事業御社殿御神門等御造営」の建築用材の視察を兼ねて、去る五月二十七・八日の一泊で実施されました。

当日は、晴天に恵まれ早朝に当八幡宮を出発し、開通したばかりのさがみ縦貫道を通り東名高速道、さらには御殿場JICから第二東名高速道を快適に走り予定より早く愛知県奥の用材工場に到着しました。早速工場内に入り香しい木曾檜を見てその素生や艶、また宮大工の匠み技で細工された



数々の用材を見て感嘆し、一行は早くも来年の竣工に想いを馳せているようでした。

翌日は尾張国二宮である旧国幣中社の大懸神社を正式参拝し宮司様より由緒や祭典等の講話を拝聴し今後の神社護持奉仕の心得を会得しました。その後一行は長良川畔宿で水面に夕映えの鵜飼いを眺めながら懇親を交わし大変有意義な参拝研修旅行になりました。



御社殿御神門等御造営 — 地鎮めの御祭斎行す —

平成二十四年十二月七日午後五時浄間の刻、氏子崇敬者並びに近隣神社の宮司・総代各位のご参列を頂き、御神体を仮御殿に遷す仮殿遷座祭が斎行されてから三ヶ月余り、旧御社殿も取り壊され、境内もすっかり整地された三月二十九日、総代世話人並びに奉賛会特別委員等ははじめ設計者施工業者の参列のもと「地鎮めの御祭」が執行されました。



修祓の後、亀ヶ池八幡大神や土地の神様に御降臨戴き、祭主の祝詞奏上、四方清め祓いの後、設計者による刈初めの儀、続いて宮司が斎砂に穿ち初めの儀、施工業者が土曳均しの儀を行い、祭主以下参列者が玉串拝礼をして工事の無事安全を祈念し、祭典も滞り無く終了しました。

今後基礎工事が済み立柱祭、上棟祭と、種々の祭典の実施を経て、平成二十六年八月の竣工を期待するものであります。



